

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4675900106
法人名	社会福祉法人 桃蹊会
事業所名	グループホーム サンライト
訪問調査日	平成21年8月3日
評価確定日	平成21年10月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4675900106
法人名	社会福祉法人 桃蹊会
事業所名	グループホーム サンライト
所在地	鹿児島県霧島市牧園町高千穂3617番地640 (電話) 0995 - 78 - 2320

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年8月3日	評価確定日	平成21年10月6日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 17 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費1日100円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85,3 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	霧島桜ヶ丘病院・永利歯科医院・霧島温泉クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

霧島の温泉地に立地する、開設6年目のグループホームである。法人敷地内に介護老人保健施設、在宅介護支援センター、病院、訪問看護ステーション、身体障害者療護施設などが併設し、他にも霧島市内にデイサービスや介護老人福祉施設などがあり、霧島市の地域医療、高齢者福祉を担ってきた。職員育成にも力を入れており、有資格者が多く、毎月のホーム内勉強会は職員全員が交代で担当になり、年間計画に沿って勉強会の資料作成を行い、職員の自己研鑽意欲に結び付いている。「介護のプロとしての意識をもって働くように」との運営者の言葉に職員は質の高いサービスを提供している。ホーム内の雰囲気もアットホームで職員が毎朝、理念を唱和するとともに、利用者も1日の目標を作成し、毎朝唱和し介護されるのみにならず日々の生活を送れるように意識付けを行っている。運営推進会議に家族の参加も多く、意見交換など活発である。今後も更に充実したグループホーム運営が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流はグループホーム協議会で職員のみ交流会があり、また、本年度は相互訪問、見学交流も計画している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員に実施してもらい、各ユニットでまとめた。評価を通して職員より管理者不在の際の業務の流れと役割分担の必要性の意見が出、改善課題にもなった。外部評価の結果は運営推進会議でも報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者、家族、行政関係者、地域住民代表者、不定期であるが、地区消防署職員、地区派出所職員、地区公民館長などの参加を得て2ヵ月ごとに開いている。毎回家族の参加が多く、ときには議長、進行役を引き受けてくれるなど積極的である。警察の協力で徘徊の利用者に対する安全確保についての対応の方法などを学ぶ機会にもなった。職員も交代で会議に参加し、関係者全員でサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議に家族の参加が多く、意見、不満、苦情などを積極的に出してくれる。家族から家族会立ち上げの意見が出、アンケートを実施したり、運営推進会議で話し合ったり出された意見について結果報告している。また、避難口の確保についての意見が出て話し合った結果、数ヵ所を確保できるようにするなど利用者の安全にもつながっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	法人の敷地にあり、近隣住民が気軽に立ち寄ってくれる立地条件にないが、法人のふれあい文化祭に地域の方々も招待し、積極的に交流の機会を作っている。また、地域の小学校とは総合的な学習で子どもたちが利用者との交流に来てくれ、ホームからはお返しに雑巾を作ってプレゼントするなどしている。今後はホームから学校に出かけていく機会を作っていくことを検討中である。中学生の職場体験実習の受け入れもしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳なる人間性の尊重」、「文化の誇り高きホーム」、「ホームは美しく輝く生活の場」の理念に加え、地域密着型理念としての「利用者が住み慣れた地域の中で生き生きと暮らしていけるよう利用者中心のケアをおこなう」との文言があり、地域との交流の重要性をうたっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム便りにも掲載しており、職員は毎朝唱和し、理念を確認し、日々のケアに取り組んでいる。また、職員会議でも理念について話し合い、確認している。利用者も「1日の目標」を作成し、リビングに掲げ毎朝唱和し、介護されるのみにならないように意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の敷地にあり、近隣住民が気軽に立ち寄ってくれる立地がないが、法人のふれあい文化祭に地域の方々も招待し、積極的に交流の機会を作っている。また、地域の小学校とは総合的な学習で子どもたちが利用者との交流に来てくれ、ホームからはお返しに雑巾を作ってプレゼントするなどしている。今後はホームから学校に出かけていく機会を作っていくことを検討中である。中学生の職場体験実習の受け入れもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員に実施してもらい、各ユニットでまとめた。評価を通して職員より管理者不在の際の業務の流れと役割分担の必要性の意見が出、改善課題にもなった。外部評価の結果は運営推進会議でも報告している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、行政関係者、地域住民代表者、不定期であるが、地区消防署職員、地区派出所職員、地区公民館長などの参加を得て2ヵ月ごとに開いている。毎回家族の参加が多く、ときには議長、進行役を引き受けてくれるなど積極的である。警察の協力で徘徊の利用者に対する安全確保についての対応の方法などを学ぶ機会にもなった。職員も交代で会議に参加し、関係者全員でサービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	成年後見制度を利用している利用者もあり、報告、相談、情報交換など、機会をとらえては積極的に連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族が頻繁に面会にくるので、面会時に近況報告や金銭出納帳の確認を行ってもらっている。ホーム便りも月1回作成し、家族に配布している。職員異動は面会時に直接紹介している。また、体調不良や検査などの際は随時連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の参加が多く、意見、不満、苦情などを積極的に出してくれる。家族から家族会立ち上げの意見が出、アンケートを実施したり、運営推進会議で話し合ったりし出された意見について結果報告している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さは理解しており、法人内の異動は基本的にはしない方針である。レクリエーションなど両ユニット合同で行うので交流があり、職員は常に行き来しているので、全職員が利用者と同様なじみの関係ができており、離職があった場合でもお互いがフォローし合って利用者へのダメージを最小限に抑えられるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成の必要性を理解し、法人内での勉強会や資格取得に向けての勉強会など積極的に支援している。また、毎月のホーム内勉強会は研修計画に沿って、全職員が交代で担当になり、資料作成をしている。運営者から「介護のプロとしての意識を持って働くように」との言葉かけがあり、働きながらレベルアップをめざしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会で職員のみ交流会があり参加している。また、本年度は相互訪問、見学交流も計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に利用者と家族に見学に来てもらい、お茶を飲んだりしてホームの雰囲気をみてもらったうえで入居してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者自身がたてた1日の目標に学ばされることも多く、利用者を介護されるのみの立場におかず、梅干し漬け、らっきょう漬、玉子焼きのワンポイントなど教わったり、利用者から学んだり、利用者の笑顔に励まされたりとともに支え合う関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の家族からの情報や、本人の思いや意向を把握し、職員全員で共有している。困難な場合は日常の行動、表情などで察知し、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意向を聞き、職員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>面会時に家族より要望、意見、受診時に主治医の意見を聞き、個別のケア記録と毎月のモニタリングでケアプランの評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。状態変化時は都度の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、リハビリ送迎、理美容院の送迎など家族の状況、本人の要望に応じて、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望する医療機関を受診できるように支援している。法人の老健施設の看護師の協力も得られるようになっており、同一敷地内に協力病院もあり、家族の安心にもなっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に「退去相談についての説明書」という名目で重要事項説明書に重度化や終末期に向けた方針を明記しており、家族に説明し、納得してもらい同意書をもっている。職員も全員方針は共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシー保護については、常に理念に沿って人間の尊厳を尊重しながら声かけするなど配慮している。ホーム便りの写真掲載についても本人、家族の同意を得ている。職員採用時の個人情報についての誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や希望に合わせた支援をしている。起床時間はそれぞれのペースで早い利用者は5時に起床し、お茶を飲んで過ごしている。レクリエーションや休憩場所など本人の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	エプロンの日をもうけ、調理手伝いなど、利用者ができる力を発揮する場面を作っている。ドリンクバーの日をもうけたり、お弁当箱に詰めて気分を替えたりと食事が楽しいものになるように工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じ、毎日でも入浴可能である。また、夜勤の時間帯以外であれば入浴時間も希望に応じ、いつでも可能である。失禁などの場合は夜間でもシャワー浴で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞、チラシでごみ入れを作り、少しでもみんなの役にしたいとの思いで、法人の敷地の施設に届けることを役割にしている利用者や自分専用のカレンダーを作ったり、ぬり絵や読書、計算、漢字プリントなど、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとの支援を行っている。隣接の法人の託児所の子どもたちとの交流も利用者の楽しみごとのひとつになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の日を設け、利用者一人ひとりの身体レベルに合わせて近所のスーパーや足湯など行き先を決めている。天気の良い日は近隣に散歩にでかけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、運営推進会議でも警察署員から徘徊の利用者に対する安全確保についてのアドバイスをうけたりし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。夜間も定時の巡視をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回実際の時間帯で昼間、夜間の避難訓練を行っている。敷地内に法人の寮も隣接しており、協力が得られるようになってきている。また、地域住民からの申し出もあり、緊急連絡網に入ってもらうなど、地域の協力も得られる体制である。災害時の備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事形態を工夫している(おかゆ、きざみ食、ミキサー食など)。水分摂取量、栄養摂取量は一覧表を作成し、全職員が把握できるようにしている。栄養バランスは法人内の管理栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広いダイニングと間に坪庭を挟んで畳の間のリビングがある。季節の花を飾ったり、季節の風物詩を作成し、飾ることで季節を感じてもらえるように工夫している。洗面所、トイレなどは身体機能を活かし、自立した生活が送れるよう配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けはベッドのみで、布団、タンス、衣装ケース、机いす、家族の写真、ぬいぐるみなどそれぞれなじみの物が持ち込まれ、安心して生活を楽しんでいる。また、時間がわかるように居室に時計の持ち込みを全員にお願いしている。		